



北海道廳野付牛中学校  
北海道廳立北見中学校  
北海道北見高等学校  
北海道北見北斗高等学校

# 東京とどの実

〈発行〉

東京とどの実会 事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 4-6-11  
湯島ハイタウン A-207

http://www.tokyo-todonomikai.com

mobile 080 - 2123 - 7380

mail tokyotodonomikai@gmail.com

## 同窓生紹介

### Interview

## 東京とどの実会のよきご意見番

昭和26年卒 小山内清隆さん

更生保護法人東京実華道場理事長

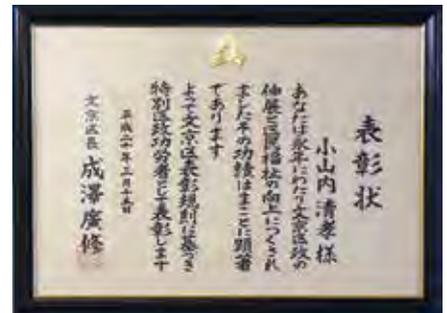
先代の東京とどの実会長、現相談役の小山内さんを会の事務所として使用させていただいている湯島の事務所に訪ねてお話しをうかがいました。

昭和25年、新制北見北斗高等学校となり、男女共学となった過渡期に在学されていた小山内さんは、創設された第一回生徒会では女子と共に書記をされたのだそうです。卒業後は北斗の図書室の職員を1年勤めて上京。電気通信大学を卒業後、理化学機器メーカーの日本電子工学研究所（現日本電子株式会社）にて先端産業だった電子顕微鏡の基礎研究に携わり、磁気の専門家として人工衛星打ち上げ前の磁気測定を行うため筑波宇宙センターや種子島にも通われていたそうです。保護司として、東京実華道場理事長と



して存じ上げている現在の小山内さんが、サラリーマンを退職して、昭和12年に北見市で叔父小

杉秀太郎氏が開設し、その後東京の現所在地に東京支部を作り東京実華道場とした事業を引き継いだのは昭和56年のことでした。仕事の内容は、刑を終えて出所した人の身元引受人となり、社会復帰するまで入寮させて食、住の面倒を見ることです。実華という名称は、明治41年に発布された国民道徳の指針「成申詔書」にある「華を去り実に就く」から採られたもので、外見の華やかさに惑わされずに、実質を重視する」という意味があります。施設は文京区湯島の「ステップ竜岡」と墨田区業平の「ステップ押上」の2カ所あり、ステップには被保護者が更生する過程を一段づつ着実に進むことを願う気持ちを表しています。



収容定員は合わせて55名、平成28年度の処遇実績では、宿泊提供延人数は二万一千七十三人にものほります。平成20年には30年に

巨る道場運営に尽力された功績に対して藍綬褒章を受章されました。また、平成29年には創立80周年を迎え、本年2月には記念式典を開催しました。  
仕事以外での小山内さんは、お住まいの町内会長を長年務め、文京区から特別区政功労者として表彰されています。また、俳句、囲碁と多彩な趣味もお持ちで85歳の現在も毎日忙しくされています。  
最近では、ステップ押上に多目的ホールが併設され、グランドピアノが設置されて、コンサートを2か月に1回開催されています。ピアノも演奏者も厳選された生演奏の音楽は鑑賞に来る地元住民の皆さんとの関係をよくすることに役立つているとのこと。かつて東京とどの実会総会開催時に行われていたミニ強行遠足、皇居一周マラソンも小山内さんの発案だったとか。アイデアマンとしてこれからも若い世代に引き継がれる東京とどの実会のご意見番をよろしく願います。

# 満面の笑み、北斗の卒業生の結びつきの強さを改めて実感

恩師 丸子秀文先生

担当幹事の久保依子さんから連絡をいただいたのは、昨年(2023)の2月だったでしょうか。話の内容がつかめず、戸惑ったのを憶えています。

北見北斗高校は、一九七九年4月〜一九八四年3月までの5年間、新卒採用で赴任し公立学校教員として勤務した最初で最後の学校です。若かったこともあり、授業・部活・生徒会・学校行事はもちろん、放課後の自主勉強会など生徒と一緒にいる時間が楽しくてしょうがない日々でした。その分、学校や生徒との衝突も少なくはなく、対応の未熟さゆえ恥ずかしさに身が縮む時代もありました。

その間、1クラスだけ授業を担当した学年を含めても関わったのは7学年。深く(と勝手に思い込んでいただけ?) 関係した学年は、昭和57年卒〜59年卒の3年間しかなかったと記憶しています。

その程度の短い関りしかない私が、何十年も続いている「東京とどの実会」のお誘いを受けるなど、頭の片隅にもなかった出来事です。毎年この会を心待ちにしている同窓生のみなさんにしてみれば、面識のない私がノコノコ現れた所で、ガツカリさせてしまうだけ「もつとふさわしい先生がいらっしやるはず:」との考えが頭をよぎり、母の容態が危険だったこともあって、申し訳なくもお断りしたのでした。しかし、その後「まだ他の先生が決まらないそうですよ。」という同期生からの連絡もあり、再度丁寧なお手紙(まるで巻物!)をいただいた久保さんに、逡巡する気持ちは変わらぬまま、お受けさせていただくこととなりました。

当日久しぶりに降り立った東京は、都知事選の熱気も相俟って蒸し暑く、空気がまとわりつくようでした。そんな気分さえ、会場



ご挨拶をされる丸子先生

で待っていたかつての生徒たちがいっぺんに吹き飛ばしてくれました。見渡せば、あちこちで歓声があがり、私より年輩の方々が多くのもの、みなさん満面の笑み、北斗の卒業生の結びつきの強さを改めて実感させてくれたのです。私の授業を不幸にも3年間受け続けた渡邊範道君が見事に司会を務め、同期生や部活の仲間同士が次々と壇上へ、高揚する時間を一緒に過ごさせてもらいました。

予定の時間はあっという間に過ぎ、その後は59年卒同期の奥澤君が経営する新宿のお店に移動。ここでは、遠方からも駆けつけた同期生が店いっぱい集まり、クラスの垣根を越えた交流。担任だった私の指導がうるさかった話や今ではもう笑うしかない話。それぞれの近況報告の際には、学生服や

## 散策 Report

### 第67回 東京とどの実の集い

#### 「愛宕神社から東京タワー、増上寺を歩く」報告

昭和47年卒 生駒 篤



と緩やかな女坂の2通りで、全員86段の出世の階段(男坂)を一息に登りました。流石、タフな北斗の面々です。登り切ると、青々とした

9時半、東京メトロ日比谷線神谷町駅集合。勤務先の最寄駅でも無い限り、余り縁の無い場所。梅雨時にも拘わらず、青空です。上は28期の加賀屋さんから下は59期の信田さんまで総勢20名が時間通り集まりました。女性5名、男性15名で男性優位なのが寂しい(?)。47期の佐藤さんは北見からご主人(41期)、お孫さん同伴で上京されたそうで、お孫さんに見送りされてイザ出発です。私がリーダーとして先頭を歩き、43期の池田さんにはサブとして、全体のまとめと写真撮影をしていただきました。同窓会旗は、私と、そして同期の福村君が持ち、お喋りに夢中になり過ぎてはぐれてしまわないよう、目印を務めました。

た境内は参拝者で溢れていて、人混みをくぐり抜けた先に「NHK放送博物館」がありました。朝ドラや大河ドラマにちなんだ展示が我々世代には堪らなく懐かしく、入場無料でもあるので、トイレ休憩を兼ね、暫し「昭和」に浸りました。女坂を下ると、右手に赤い東京タワーが見えてき



ます。展望台行きエレベーターの前には家族連れが行列を作っていますが、時間が無いので上がらず、都立芝公園の緑の中を歩きました。「もみじ谷」は鬱蒼とした木立に囲まれて薄暗く、深山幽谷の趣さえあります。通りの反対側も芝公園で、高層の「ザ・プリンスパークタワー東京」が睥睨しているため、ホテル付属庭園のようにも見えます。公園の中にある「芝東照宮」に参拝。日光東照宮、久能山東照宮、上野東照宮と並ぶ四大東照宮の一つとされていますが、随分と小ぶりです。北隣の増上寺は、上野寛永寺と並ぶ徳川家菩提寺の一つ。境内の徳川将軍家霊廟内には2大將軍秀忠など6人の將軍、および正室、側室が埋葬されています。巨大な本堂のバックには東京タワー。「江戸」と「東京」の象徴が隣接しているのは単なる偶然の一致でしょうか? ここでやっと一休み。思い思いに参拝していただいてから芝大門を経て終点の浜松町駅に着きました。皆、まだ歩き足りなそうでしたが、ここから総会会場の市ヶ谷に向かいました。



清澄庭園(上)、回向院(下)

「深川から両国へ」初夏の江戸歴史散策 江戸随一の門前町と芭蕉・忠臣蔵の舞台を訪ねます。江戸時代、深川不動堂と富岡八幡宮の門前町として栄えた深川。今も変わらずに活気に溢れています。深川から清澄庭園を経て隅田川に至る辺りは川と緑で変化に富みながらも平坦で歩きやすい道筋です。隅田川親水テラスをそぞろ歩いた先は両国。四十七士が討ち入った本所松坂町の吉良上野介屋敷跡や点在する相撲部屋の前を通り、回向院へ。ここは浄土宗の寺院です。三六〇年前の明暦3年に「振袖火事」として知られる大火で10万人といわれる亡くなった人々のうち、身寄りのない亡骸を將軍家綱の命により隅田川東岸に葬り、御堂を建てて大法要を執り行ったことが始まりです。その後、旧安田庭園、東京都慰霊堂を経て両国駅へ至ります。

### 今年の散策案内

セーラー服を着た当時の面影が押し寄せてきて困ってしまいました。教員を辞した後、学校と呼べないような学校をつくらうとしたり、不登校の子を中心とした私塾を立ち上げたりして若者たちと付き合い付けてきた私のテーマは、一人ひとりが自分の頭で考え、のびのびと羽根を広げながらもつながり合う関係性の模索です。いま目の前にあるのは、その関係性を大切にしながら、ちゃんと社会に足をつけていき北斗の卒業生たちの頼もしい姿でした。58年卒も合流してくれて、終電近くまで続いた集いは、元応援団で私が担任でもあった石塚君のメールによる校歌斉唱とともに閉じられようとしています。『次はぜひ北海道で夢の続編を』と、望みながら。

この度、「東京とどの実会」に呼んでいただいたみなさんには、本当に感謝申し上げます。そして今度は、いつでもどなたでも、私の所へ遊びに来て下さることを心から願っております。今年も、これからも、大切にしたい出会いが続きますように。



会長 長谷川知子さん (昭和40年卒)



恩師 丸子先生



来賓・渡部校長先生 (昭和52年卒)



来賓・小原とどの実会長 (昭和52年卒)



司会：渡邊 範道さん (昭和59年卒)  
伊東千鶴子さん (昭和49年卒)



全員合唱リード長谷川さん (昭和38年卒)  
吉見さん (昭和56年卒)



乾杯 山本勉さん (48年卒)



中締め 田上博志さん (昭和50年卒)



散策参加者集合

の乾杯の音頭で終始和やかな語らいの場となりました。恒例となった集いの前に行われる散策報告（東京タワーから増上寺）、各卒業年別の写真撮影と続いた会は、「今日の日はさようなら」を全員で合唱した後、来年の当番である田上博志さん（昭和50年卒）の中締めで来年を期してめでたく散会となりました。今年は、めったにお見えにならない沢田亜矢子さん（昭和42年卒）がおいでになり、写真頁を賑やかにいただきました。次回はオリンピック選手にもご参加いただきたいです。

# 第67回「東京とどの実会」

## 世代ごとの集合写真



24～30年卒



32年卒



34年卒



37年卒



38年卒



39年卒



40年卒



41年卒



42年卒



43年卒



44年卒



45・47年卒



48・49年卒



50～56年卒



58年卒



59年卒

## 世代を超えて 歓談



# およせいただいた近況から

昭和52年卒 引地 聡

## 同期会だより

52期の東京同期は年に2〜3回同期会を開催しています。前回は昨年の9月16日に開催。毎回7〜10名ほどが集まります。北見から旅行で上京する同期も参加して最近の話に花が咲きます。写真は59期の奥澤さんが店長を務める「北の幸 釧路港」で撮ったものです。次回は東京とどの実会総会の後に開催予定です。

たくさん写った集合写真は



59期奥澤氏が店長を務める「北の幸 釧路港」にて



34年ぶりの再会 温根湯大江本家にて

二〇一一年11月19日温根湯大江本家で開催された52期全体の同期会のもので。卒業以来の邂逅で34年ぶり、参加40人で夜中まで懐かしい話に盛り上がりました。今年の10月20日に同じ大江本家で2回目を開催します。奮ってご参加をお待ちしています。

## 同窓生紹介

### 「葡萄の長屋」

建築家 金谷直政さん

同窓生金谷直政さん（昭56年卒）が設計施工、運営している下町のゲストハウス「葡萄の長屋」をご紹介します。こちらは金谷さんの工夫溢れる上質な空間、屋上にはスカイツリーを望む国産ヒノキの露天風呂があります。「Eterni. (豊) のある空間デザインコンペ」で準優秀賞獲得、テレビ東京の「モヤモヤさまぁ〜ず2」でも絶景露天風呂として紹介されました。京成曳舟駅より徒歩7分、同窓生の皆さんからのお問い合わせ大歓迎です。「葡萄の長屋」のホームページも合わせてご覧ください。  
<https://budunoeyadon.net/>



### 八幡野窯で陶芸体験

昭和47年卒 伊藤 久絵

47期の毎年恒例温泉旅行の今年も行先は伊豆。宿泊はメンバーの所属する会社の豪華社員宿泊施設です。近年、必ず体験を組み入れる旅程にしているのですが、今年は陶芸です。伊豆高原の八幡野窯で電動ロクロをまわしました。ぐい飲みをつくるはずが、お茶碗になったりと、予期せぬ展開に楽しいひと時を過ごしました。



# 二人のカーリング・オリンピック

## 同窓生の壮行会と報告会

北見北斗高等学校校長

渡部道博

85期の藤澤五月さんには、12月の冬期休業前全校集會に合わせて開いたオリンピック出場壮行会に来ていただきました。86期の平田洸介さんは、仕事の都合で来ることができなく、藤澤さんだけの壮行会となりました。藤澤さんは、いろいろなことを在校



在校生との記念撮影

生へのメッセージとして語ってくれました。藤澤さんは、大学へ行こうと思っただけで入学しましたが、進路を決めるときに、担任から勉強はいくつになってもやり直せるが、カーリングでオリンピックに出場する夢の実現は今しかできないという言葉が後押しとなって、大学へ行くが途中で電力に就職することにしました。失敗を恐れずに挑戦することの大切さを語りかけてくれました。

そして、平昌オリンピックでは言わずもがな藤澤さんがメダリストとなり、LS北見のオリンピックでの活躍は日本中を沸かし、北見が一躍有名となりました。

3月23日に本校の修了式・離任式



ハイタッチ

平田洸介選手は、さらに、在校生へのメッセージとして、小さい目標をひとつひとつクリアしていくって、大きな目標につなげていくという意識を持つてほしいと語りかけまし

た。校長室に戻ってからの話の中で、「PDCAサイクルを意識することを北見工大時代に身に付けることができた。それが高校時代からわかっていたら、もっと勉強にも身が入ったのに。」と悔やんでいました。現在は、SC軽井沢クラブのある軽井沢に住んで、渋谷にあるIT企業に通勤しています。片道1時間半かかる通勤はつらいものがあるけど、軽井沢に住んで練習をしているからこそオリンピックにも出ることができたと考えており、将来は、北見に戻って、北見を本拠地にしたカーリングチームを作っただけでいい。東京とどの実会の集いへの参加を誘ったところ、ご連絡をいただければ是非参加したいということでした!!



挨拶をする平田さん

東京とどの実会

●会員数	1,302人	2017年12月31日現在
●会費納入数	270人	2018年3月31日現在
●総会出席者数		
2015年	106人	スクワール麹町
2016年	141人	スクワール麹町
2017年	125人	アルカディア市ヶ谷

平成28年度会計報告書

自 28年4月1日  
至 29年3月31日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	1,624,589	会合費	59,487
年会費収入	556,000	印刷費	26,200
総会費収入	903,000	消耗品費	100,326
寄付金収入	257,000	通信交通費	197,188
預金利息	115	支払手数料	26,470
		総会費	954,525
		渉外費	31,500
		次期繰越金	1,655,204
合計	3,340,704	合計	3,340,704

物故者一覧 (2017年)

(冥福をお祈りいたします。)

- 昭10年卒 高橋 淳太郎
- 昭14年卒 佐々木 伸治
- 昭26年卒 弓山 康夫
- 昭27年卒 大友 一郎
- 昭38年卒 楠 健治
- 昭39年卒 菊田 英世

(敬称略)

東京とどの実会役員

(平成29年度～30年度)

名誉会長	昭24年卒	桂 教夫	監査	昭34年卒	馬場 正孝	会計	昭56年卒	吉見 じゅり
相談役	昭26年卒	小山内 清孝	顧問	昭27年卒	宮井 国夫			
会長	昭40年卒	長谷川 知子		昭37年卒	半田 護			
副会長	昭40年卒	前田 良三	幹事	昭40年卒	石渡 俊弘			
	昭42年卒	広川 正三		昭41年卒	松浦 宏幸			
	昭47年卒	伊藤 久絵		昭42年卒	平澤 芳樹			
幹事長代理	昭40年卒	前田 良三		昭43年卒	池田 順子			
(兼務)				昭44年卒	角 論			
副幹事長	昭45年卒	岡田 光弘		昭44年卒	井上 順治			
	昭47年卒	生駒 篤	幹事	昭45年卒	池田 好美			
	昭53年卒	渡辺 由紀子		昭46年卒	松田 寛			
	昭58年卒	今野 久美		昭48年卒	矢萩 典行			
				昭49年卒	伊東 千鶴子			
				昭50年卒	村上 幸子			
				昭50年卒	引地 聰			
				昭52年卒	立崎 幸子			
				昭55年卒	大場 伸子			
				昭58年卒	渡邊 範道			
				昭59年卒	久保 依子			
				昭59年卒	柳田 美和			
				昭61年卒	鎌田 哲生			
				昭61年卒	浅井 千波			

編集後記

- ・平昌オリンピックでのLS北見の活躍で、すっかり北見が有名になりました。先日有楽町の交通会館にある北海道のアンテナショップをのぞいたら、「赤いサイロ」本日入荷分は売り切れとの表示がありました。「そだねー」の商標登録では北見工大生協が六花亭より出願が早かったとのこと、少し安心したのは北見出身者だけでしょうか。カーリングフィーバーが一時で終わらないように末長く見守りたいと思います。(NY)
- ・45年ぶりにふるさと北見に帰って暮らすことになりました。2011年発行の第12号から会報作成に携わり、今回お届けする19号でめでたく卒業です。すっかり有名人となった藤澤五月さんがまだ中部電力のメンバーだった頃、軽井沢まで取材に行ったのが良い思い出です。会報は若い世代に後を託します。よろしく。(HI)

思い出の写真

